令和8年度
研究実践園
研究事業

清田区　研究実践園研究事業
研究だより

からふる きよた

札幌市立認定こども園にじいろ
研究だより　第1号
令和8年6月30日（火）発行



研究の重点：『長時間保育における幼児期にふさわしい生活』
研究の視点：一人一人が一日を通して充実した園生活を送るために

昨年度の研究と成果

～子どもの思い、遊びをつなぐ～

認定こども園に通園する子どもの1日の過ごし方や生活の仕方が近年多様化しています(長時間保育、短時間保育、預かり保育の利用など)。様々な生活様式の子どもたちが集まり、生活をともにしている中で、子どもの思いや遊びが続いていくよう支えるために、どのような援助や環境が必要かについて研究を進めてきました。その成果として①教育時間の中で積み重ねた経験が保育時間や家庭での遊びの広がりにつながる②一人一人の遊びへの思いが、友だちのやってみたい思いへ広がっていく③教育時間の中でじっくり遊び込む経験が、自分で遊びを進めていく力につながる、という気付きを得ることができました。



今年度の研究仮説



研究方法

＜事例検討＞
3～5歳児、各年齢の遊びや子どもの姿をもとに事例を作成し、話し合いを行う。
☆下記の観点で話し合いを行う。

- **幼児の姿**
  - ◆遊びへの思い
  - ◆安定した生活
- **保育者の援助・環境の構成**
- **保育者同士の連携**
- **家庭とのつながり**

＜アドバイザー研修＞
研究アドバイザーを講師に、長時間保育の観点で子どもの見取り、保育者の援助について考えていきます。

本園研究アドバイザー：
光塩学園短期大学　保育科　教授
加藤　貴子　氏